

アセット・インベスターズ株式会社

2009年3月期 第3四半期 決算説明資料

2009年2月27日



- I 部 2009年3月期 第3四半期 決算概要**
- II 部 第三者割当増資の実施**
- III 部 新経営戦略**

I 部 2009年3月期 第3四半期 決算概要

1. 第3四半期間の事業の概況
2. 連結損益計算書（3Q累計）の概況
3. 連結貸借対照表の概況
4. 通期連結業績予想の修正

【 補足資料 】

- ① MB事業 投資残高の推移
- ② H & W事業の概況

1. 第3四半期間（平成20年10月～12月）の事業の概況

- マーチャント・バンキング事業における積極的な投資回収
- 市況低迷による売却損、評価損の計上

- アセット・マネジャーズ株式会社への営業投資資産の一括売却など、積極的な投資回収を実行
- 一方で、株式・不動産市況低迷の影響を受け、売却損と評価損合わせて約30億円を計上

- ホスピタリティ&ウェルネス事業は堅調に推移

- 各事業拠点の実績はほぼ横ばいで堅調に推移
- ボウリング場「浜松グランドボウル」の設備及び事業をアセット・マネジャーズ株式会社に売却
- その他バッティングセンターなど不採算拠点からの撤退が進捗

- 通期連結業績予想を修正

- 第3四半期連結累計期間の四半期純損失が9,187百万円となったことに加えて、第4四半期会計期間に社債償還益約13億円を見込むことなどから、通期連結業績予想を当期純損失7,700百万円へ下方修正(※)

※平成21年2月12日付当社「平成21年3月期 第3四半期決算短信」において平成21年3月期の連結業績予想の修正を公表しております

2. 連結損益計算書（3Q累計）の概況

～市況低迷などの影響を受け四半期純損失を計上

単位：百万円	08/3期3Q 実績	09/3期3Q 実績	前年同期比 増減	【参考】 08/3期 通期実績
売上高	3,963	6,667	2,704	5,054
MB事業	1,703	3,924	2,221	2,199
H&W事業	2,291	2,961	670	3,083
売上総利益	2,612	△6,701	△9,313	2,004
営業利益	13	△9,399	△9,412	△1,128
MB事業	△120	△8,366	△8,246	△528
H&W事業	△55	△74	△19	△83
経常利益	△262	△9,600	△9,338	△1,515
四半期（当期）純利益	917	△9,187	△10,104	44
EPS（円）	11.17	△111.84	—	0.55

(注)・MB事業はマーチャント・バンキング事業の、H&W事業はホスピタリティ&ウェルネス事業の略称です。
 ・事業セグメントごとの売上高は、内部消去前の数値を記載しております。
 ・08/3期通期の事業セグメントごとの売上高及び営業利益には、MB事業、H&W事業のほか、その他事業がありますが、少額であり記載しておりません。

- 期首からの積極的なEXIT活動やアセット・マネジャーズ株式会社への営業投資資産の一括売却などにより国内・海外企業及び不動産の投資回収が進捗、売上高6,667百万円と前年同期比2,704百万円の増収
- 積極的な投資回収により売却損が膨らんだほか、市況悪化に伴う営業投資有価証券の評価損を追加で計上したことにより、営業損失9,399百万円、経常損失9,600百万円と大幅な赤字を計上
- これに加えて、固定資産の売却損及び減損損失などによる特別損失約18億円、法人税等調整額約15億円、少数株主損失約30億円があり、四半期純損失9,187百万円となる

3. 連結貸借対照表の概況 ～投資回収や資産評価減により総資産が大幅に減少

単位：百万円	08/3期 期末	09/3期 3 Q	構成比	前期末 比増減
流動資産	24,399	6,147	54.3%	△18,252
現預金	1,758	649	—	△1,109
受取手形及び売掛金	160	147	—	△13
① 企業投資	12,631	3,409	—	△9,222
① 不動産投資	2,935	1,273	—	△1,662
② 営業貸付金	3,506	334	—	△3,172
② 繰延税金資産	2,160	—	—	△2,160
② その他流動資産	1,247	335	—	△912
固定資産	4,676	5,172	45.7%	496
③ 有形固定資産	3,574	4,019	—	445
③ 無形固定資産	11	9	—	△2
③ 投資その他資産	1,089	1,143	—	54
資産合計	29,075	11,320	100.0%	△17,755

単位：百万円	08/3期 期末	09/3期 3 Q	構成比	前期末 比増減
流動負債	7,341	3,154	27.9%	△4,187
④ 短期借入金	5,906	1,050	—	△4,856
1年以内返済長期借入金	668	1,012	—	344
④ その他流動負債	766	1,092	—	326
固定負債	7,024	6,605	58.3%	△419
④ 長期借入金	1,766	2,204	—	438
④ 社債	600	600	—	—
④ 新株予約権付社債	4,025	3,475	—	△550
④ その他固定負債	633	326	—	△307
純資産	14,709	1,559	13.8%	△13,150
⑤ 株主資本	11,562	2,230	19.7%	△9,332
⑤ 評価・換算差額等	△693	△932	△8.2%	△239
⑤ 新株予約権	89	46	0.4%	△43
⑥ 少数株主持分	3,751	215	1.9%	△3,536
負債・純資産合計	29,075	11,320	100.0%	△17,755

増減の主な要因

- ① 営業投資資産が、投資回収、評価損（多田建設(株)約30億円等）、ファンド子会社解散等により前期末比約92億円減少
- ② 繰延税金資産の前期末残高2,160百万円を当期に全額取崩し
- ③ 有形固定資産は、子会社の不動産信託受益権の取得約26億円一方で、資産売却及び減損損失があり、前期比約4億円の増加
- ④ 新規設備資金として長期借入金約26億円があった一方で、これ以外の短期/長期借入金については大幅に圧縮
- ⑤ 四半期純損失9,187百万円により株主資本が減少し、3Q末の連結純資産は約15億円（自己資本比率は11.5%）
- ⑥ 少数株主持分は、多田建設(株)株式の評価損の影響約25億円のほか、連結子会社の解散などにより前期比約35億円の減少

4. 通期連結業績予想の修正

当社は、2009年2月12日付で通期連結業績予想を以下の通り修正いたしました。

単位：百万円		通期 前回予想 (A)	通期 修正後予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率	3Q 実績 (C)	4Q 見込 (B-C)
通 期	売上高	8,600	9,000	400	4.7%	6,667	2,333
	営業利益	△8,300	△9,200	△900	—	△9,399	199
	経常利益	△8,500	△9,400	△900	—	△9,600	200
	当期純利益	△7,100	△7,700	△600	—	△9,187	1,487
	1株当たり当期純利益(円)	△87.65	△65.33	—	—	△111.84	—
	期末連結自己資本	—	—	—	—	1,289	4,000

通期連結業績予想の修正の主な要因

- 投資回収の進捗により売上高予想を8,600百万円から9,000百万円に上方修正
- 市況低迷の影響などにより、3Q累計で損失が想定以上に膨らんだことから、営業損失9,200百万円、経常損失9,400百万円に下方修正
- 上記の一方で、4Qに社債償還益(後述)約13億円を計上することから、当期純損失7,700百万円となる見込み

増資等による自己資本増強により期末自己資本は40億円程度、
自己資本比率は40%超まで改善見通し

【企業投資部門の投資残高】

単位：百万円	08/3期			投資社数増減		09/3期 3Q			
	投資社数	投資残高	構成比	増加	減少	投資社数	投資残高	構成比	前期末比投資額増減
国内企業	23	8,176	65%	0	8	15	903	26%	△7,273
上場企業	8	3,040	24%	0	5	3	865	25%	△2,175
未上場企業	15	5,136	41%	0	3	12	38	1%	△5,098
海外企業	24	4,455	35%	0	5	19	2,505	73%	△1,950
上場企業	5	1,013	8%	0	4	1	342	10%	△671
未上場企業	19	3,442	27%	0	1	18	2,163	63%	△1,279
合計	47	12,631	100%	0	13	34	3,408	100%	△9,223

- 投資回収と評価減により国内企業投資で約72億円の減少、海外企業投資残高で約20億円の減少

【不動産投資部門の投資残高】

単位：百万円	08/3期			投資案件増減		09/3期 3Q			
	投資物件・ファンド数	投資残高	構成比	増加	減少	投資物件・ファンド数	投資残高	構成比	投資額前期比増減
営業投資有価証券	9	1,012	34%	0	3	6	560	44%	△452
たな卸資産	6	1,923	66%	0	2	4	712	56%	△1,211
合計	15	2,935	100%	0	5	10	1,273	100%	△1,662

- 販売用不動産の投資回収があったほか、営業投資有価証券の評価減があり投資残高が約16億円減少

【H & W事業の売上高・売上総利益・営業利益】

単位：百万円	08/3期 3Q累計	09/3期 3Q累計	前年同期比 増減	【参考】 08/3期通期
売上高	2,291	2,961	670	3,083
ホテル事業 ホテル日航茨木大阪(大阪府茨木市) ホテルJALシティ松山(愛媛県松山市) 公営施設の指定管理6箇所(09/3期開始)	1,825	2,550	725	2,442
アミューズメント事業 ボウリング場(岐阜県土岐市・静岡県浜松市) 複合アミューズメント施設(茨城県坂東市) バッティングセンター(門真等)	445	389	△56	611
その他	21	22	1	29
営業利益	△55	△74	△19	△83

● 売上高は前年同期比670百万円増の2,961百万円

- ホテル事業は、指定管理事業の開始に伴い、前年同期比725百万円の増収
- アミューズメント事業は、ボウリング場市況の低迷や競合店の出店等により前年同期比56百万円の減収

● 営業利益は前年同期比19百万円減の△74百万円

- 景気低迷やガソリン高、物価高を背景としたレジャー需要の落ち込み
- 事業撤退に伴う一時的な支出

1. 株主構成の異動

2. 新経営体制

【参考】第三者割当増資の概要

1. 株主構成の異動

増資前の株主構成(上位10名) ※9月末名簿

株式会社エフ・アール・ホールディング (アセット・マネジャーズ グループ100%出資子会社)	50.10%
伊藤忠商事株式会社	9.80%
いちごアセットトラスト 常任代理人 香港上海銀行東京支店	2.90%
ユービーエス エージー ロンドン アカウント アイピービー セグリゲイテッド クライアント アカウント 常任代理人 シティバンク銀行株式会社	2.40%
B E V 2号投資事業組合	1.20%
エイチエスビーシーバンク ピーエルシー クライアント ノントラックストリーティ 常任代理人 香港上海銀行東京支店	0.90%
個人株主	0.90%
個人株主	0.70%
個人株主	0.70%
本荘倉庫株式会社	0.70%
計	70.60%

2009/1/15
増資完了

増資後の株主構成(上位10名) ※9月末名簿を元にした試算

TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED	31.70%
古川 令治	25.40%
株式会社エフ・アール・ホールディング (アセット・マネジャーズ グループ100%出資子会社)	14.90%
若山 健彦	3.80%
伊藤忠商事株式会社	3.60%
JCW株式会社	2.50%
いちごアセットトラスト 常任代理人 香港上海銀行東京支店	1.10%
ユービーエス エージー ロンドン アカウント アイピービー セグリゲイテッド クライアント アカウント 常任代理人 シティバンク銀行株式会社	0.90%
B E V 2号投資事業組合	0.40%
エイチエスビーシーバンク ピーエルシー クライアント ノントラックストリーティ 常任代理人 香港上海銀行東京支店	0.30%
計	84.70%

- ・増資と株式売却によりアセット・マネジャーズ グループの出資比率は過半数から約15%未満に低下
(=同社グループの子会社、持分法適用関連会社から除外)
- ・TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED(中国等の投資家による投資ファンド)、古川令治氏、若山健彦氏、JCW株式会社が新たに当社の大株主となる

2. 新経営体制

取締役

- 若山 健彦
代表取締役会長
- 森下 将典
代表取締役社長兼CEO

- 浦勇 和也
取締役副社長兼CFO
- 佐々木 博文
取締役

他 社外取締役3名

- ・2/1付で若山健彦が代表取締役社長兼CEOを退き代表取締役会長に就任
- ・同日付で後任の代表取締役社長兼CEOに森下将典が就任

執行役員及び顧問

- 古川 令治 氏
執行役員CSO(2009/3/1～)
(北京大学東北アジア区域一体化研究センター 副理事長・兼職教授)
- グ・ケニー 氏
執行役員CPO(2009/3/1～)
(香港大学教授、マカオ大学教授)

- アレン・チャン 氏
顧問
(公認会計士(香港)、Chan Chee Cheng & Co.社 パートナー)
- スー・コリン 氏
顧問
(前CCB International Securities Ltd.社 ディレクター)

- ・中国ビジネスの専門家である各氏が当社執行役員及び顧問となり、当社「経営諮問委員会」に参加
- ・各氏の豊富な経験、ビジネスネットワークを当社経営に活かしていくことにより、当社「新経営戦略」を強力に推進

経営諮問委員会

当社の経営方針及び重要案件について提言、意見を行う機関として「経営諮問委員会」を発足いたします。

若山健彦(代表取締役会長)、執行役員2名、顧問2名の計5名により構成。

当社の経営合理化及び経営戦略の推進のため、経営陣を支援してまいります。

【参考】第三者割当増資の概要

(1)	発行新株式数	普通株式 142,859,000株
(2)	発行価額	1株につき金7円
(3)	払込金額の総額	金1,000,013,000円
(4)	増加する資本金の額	金571,436,000円 (1株につき金4円)
(5)	割当人と株式数	
	TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED	71,429,000株
	古川 令治	57,143,000株
	若山 健彦	8,572,000株
	J CW株式会社	5,715,000株
(6)	取締役会決議日	平成20年12月18日
(7)	払込完了日	平成21年1月15日

- 参考リリース

平成20年12月18日付「第三者割当による新株式の発行に関するお知らせ」

平成21年1月15日付「第三者割当増資の払込完了に関するお知らせ」

1. 経営合理化
2. 新経営理念
3. 事業領域
4. 新事業戦略
5. 会社概要

● 財務リストラクチャリングの完了へ

積極的な投資回収、保守的な資産評価、有利子負債圧縮等による資産の大幅圧縮

転換社債型新株予約権付社債の早期償還は完了

第三者割当増資（2009年1月15日払込完了）による資本増強

● 事業リストラクチャリングの推進

連結子会社(株)アセット・オペレーターズとのグループ一体経営の強化

ホスピタリティ&ウェルネス事業における不採算拠点からの撤退

徹底的なコスト削減により経常的な損益、キャッシュ・フローの黒字転換

2008/6 連結貸借対照表(実績)

投融資 127	借入金 99
	転換社債 40
その他 51	その他 18
	純資産 93
固定資産 72	

総資産 約250億円

2009/3 連結貸借対照表(計画)

※当期の連結業績予想をもとに概算した連結貸借対照表であり、参考として記載しております。

投融資 35	借入金 48
その他 20	その他 10
固定資産 45	純資産 42

総資産 約100億円

圧縮

Objectives

- 日本及び中国の双方をつなぐグローバル・マーチャント・バンクとして、信頼とビジネスネットワークを築くことを目指してまいります。

Mission

- クライアント企業の皆様に、事業戦略立案、ファイナンス及びM&Aなどに関する高度かつ顧客志向のソリューションを提供し、企業価値の向上に貢献いたします。
- “Better Living Better Life”に資する日本及び中国のノウハウを結集し、双方の事業家がwin-winを実現できる事業展開をサポートします。

Strength

- 当社の「プロフェッショナル・マーチャント・バンカー」としてのノウハウと、日本及び中国におけるビジネスネットワークを活かした、他に比類ないグローバル・サービスを提供することを当社の強みとしてまいります。



日本・中国をつなぐマーチャント・バンキング事業とオペレーション・マネジメント事業に特化

中国

巨大な潜在市場

- ✓環境関連市場
- ✓IT関連市場(モバイル、ソフトウェア等)
- ✓精密機器市場

etc

日本・中国のシナジー
||
「ビジネスチャンス」

日本

高度なテクノロジー/サービス

- ✓世界最高水準の製品開発能力
- ✓国内市場は既に成熟
- ✓中国における日本の技術力の高いニーズ

日本と中国をつなぐマーチャント・バンキング事業

M&Aアレンジメント、投資ファンド運営、IPO支援
“Professional Merchant Bankers”

日本と中国のシナジーを活かしたオペレーション・マネジメント事業

ホテル事業、ライフスタイル関連事業、その他事業
“Better Living Better Life”

新生A Iは、日中間ビジネスに特化した特色あるマーチャント・バンクとして新たな成長段階へ

ブティック型(欧州型)マーチャント・バンクの時代

大型化・機能拡大

大型(米国型)インベストメント・バンクの時代

レバレッジ肥大・規制強化

ビジネスモデル崩壊

米国発の金融危機により大型インベストメント・バンクのビジネスモデルが崩壊したなかで、金融市場のニーズを満たす「ブティック型マーチャントバンク」が再び飛躍できるチャンス

- 5つの中核業務（IPO、NPL、M&A、PF、OP）の推進により「小粒でぴりりと辛い」ブティック型マーチャント・バンクを目指します。
- 全て借入金により自己投資を実施した場合も、B I S基準自己資本比率15%（規制対象金融機関でないため参考値）を維持してまいります。なお、2011年3月期までは、自己資本比率30%、流動比率200%以上を目処として、保守的な財務運営を図ってまいります。
- 当社は、こうした事業戦略に沿った新たな中期経営計画の策定を検討しており、内容が固まり次第公表する予定です。

5. 会社概要

会社概要

商号	アセット・インベスターズ株式会社
本社	東京都千代田区内幸町一丁目1番1号 帝国ホテルタワー
資本金	4,290百万円(2009年1月16日現在)
設立	1947年3月17日
代表者	代表取締役会長 若山 健彦 代表取締役社長兼CEO 森下 将典 ※上記は2009年2月1日付異動後
大株主	TOTAL NETWORK HOLDINGS LIMITED 古川 令治 株式会社エフ・アール・ホールディング ※アセット・マネジャーズグループ100%出資子会社
業務内容	1. 国内、海外の企業・不動産への投融資 2. 国内、海外の企業・不動産に関する財務アドバイス 3. 国内、海外の企業・不動産を対象とした投資ファンドの運用 4. 不動産の売買、仲介、賃貸及び管理業務等 5. ホテル業の運営及び管理 6. ボウリング場等アミューズメント施設の運営及び管理

沿革

1947/3	西日本紡織株式会社(本社福岡県福岡市)設立 繊維事業を開始
1949/6	福岡証券取引所に株式上場
1961/9	大阪証券取引所第二部に株式上場
1967/7	都築紡績株式会社が西日本紡織株式会社の経営継承
1979/4	都築紡績株式会社が津島毛糸紡績株式会社と合併 新日本紡績株式会社に社名変更
1994/10	熊本県菊池郡泗水町(現菊池市泗水町)に本社移転
1996/6	愛知県名古屋市においてオフィスビルの賃貸業を開始
1996/9	静岡県浜松市、岐阜県土岐市においてボウリング事業を開始
2002/5	国内繊維事業から撤退
2003/1	アセット・マネジャーズ株式会社(現アセット・マネジャーズ・ホールディングス株式会社)が親会社となる
2003/6	愛知県名古屋市に本社移転
2003/7	アセット・インベスターズ株式会社に社名変更 マーチャント・バンキング事業を本格的に開始
2004/7	株式会社アセット・オペレーターズを子会社とする ホスピタリティ&ウェルネス事業を開始
2006/6	東京都千代田区に本社移転
2009/1	第三者割当増資を実施 (アセット・マネジャーズグループが当社親会社でなくなる) 経営体制を刷新、「新経営戦略」を策定



【お問い合わせ先】

経営企画部 IR担当

TEL : 03-3502-4911 FAX : 03-3502-4915

E-mail : info@assetinvestors.co.jp

URL : <http://www.assetinvestors.co.jp/>

本資料は当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。投資に関する決定は利用者ご自身の判断において行われるようお願い申し上げます。
また、本資料は2008年12月末現在の財務データに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等のうち、歴史的事実でないものは、資料作成時点における当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。